

製品名: リン酸化 α シヌクレイン (S129) (15T7) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe05849**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:200-1:500
分子量	14kDa

抗原情報

遺伝子名	SNCA
別名	NACP; Non-A beta component of AD amyloid; Non-A4 component of amyloid precursor; SYN; SYUA; alpha-synuclein; PARK1; PARK4; PD1; SNCA;
遺伝子 ID	6622.0
SwissProt ID	P37840
免疫原	ヒト α シヌクレインの Ser129 を囲む残基に対応する合成リン酸化ペプチド

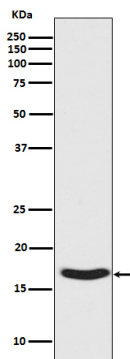
背景

α -シヌクレインは、 β -シヌクレインおよび γ -シヌクレインを含むシヌクレインファミリーのメンバーです。シヌクレインは脳内に豊富に発現しており、 α -シヌクレインと β -シヌクレインはホスホリパーゼ D2 を選択的に阻害します。シナプス小胞輸送とそれに続く神経伝達物質の放出の調節など、シナプス活動において複数の役割を果たす神経タンパク質です。シナプス小胞のプライミング、融合、およびエキソサイトーシス融合孔の拡張を促進することにより、シナプス小胞エキソサイトーシスにモノマーとして関与します (PubMed:28288128、PubMed:30404828)。機構的には、ATP 誘導性エキソサイトーシスの促進に不可欠な、ミクロドメインからの局所的な Ca^{2+} 放出を増加させることによって作用します (PubMed:30404828)。膜結合型多量体状態では分子シャペロンとしても機能し、システインストリングタンパク質 α /DNAJC5 と連携して、シナプス前膜における SNARE (可溶性 NSF 接着タンパク質受容体) と呼ばれるシナプス融合構成要素のフォールディングを補助します (PubMed:20798282)。このシャペロン活性は、加齢に伴う SNARE 複合体の正常な構築を維持するために重要です (PubMed:20798282)。また、ドーパミントランスポーター (DAT1) と会合してその活性を調節することにより、ドーパミン神経伝達の制御にも関与しています (PubMed:26442590)。

研究分野

神経科学

画像データ



ヒト胎児脳溶解物におけるシヌクレインのリン酸化発現のウェスタンブロット分析。